

小規模企業の景況

(令和2年4～6月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)令和2年4～6月期の結果概要は以下の通り。今期(令和2年4～6月期、調査基準日:6月1日)の業況DI値は▲75.5(前回調査から42.6ポイント悪化)となり4期連続で悪化、売上額DI値は▲76.9(前回調査から43.7ポイント悪化)となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、業況DI値、売上額DI値は過去最低となり、下げ幅も過去最大となった。なかでも卸売業における業況DI値では▲85.1(前回調査から46.6ポイント悪化)、売上額DI値では▲83.6(前回調査から40.5ポイント悪化)と大幅に悪化した。また従業員過不足DI値は前回調査から12.4ポイントと大幅に改善し、中小企業の人手不足感は急激に弱まった。

「経営上の問題点」では全業種で「その他」が第2位となり、「その他」の自由回答欄に記載があった全業種48件のうち26件が、緊急事態宣言による消費の激減、流通の停滞等、新型コロナウイルス感染症を原因としたマイナスの影響を指摘した。

1. 今期(令和2年4～6月期)の状況

【売上額】今期(令和2年4～6月期)の売上額DI値(全産業)は、前回調査(令和2年1～3月期)の(▲33.2)から43.7ポイント悪化し、▲76.9となった。業種別では前回調査から、製造業が47.5ポイント、卸売業が40.5ポイント、小売業が38.3ポイント、サービス業が46.8ポイントそれぞれ悪化した。

【資金繰り】今期の資金繰りDI値(全産業)は、前回調査(▲22.1)から27.2ポイント悪化し、▲49.3となった。業種別では前回調査から、製造業が30.4ポイント、卸売業が26.0ポイント、小売業が28.0ポイント、サービス業が24.3ポイントそれぞれ悪化した。

【業況】今期の業況DI値(全産業)は、前回調査(▲32.9)から42.6ポイント悪化し、▲75.5となった。業種別では前回調査から、製造業が44.9ポイント、卸売業が46.6ポイント、小売業が33.8ポイント、サービス業が44.3ポイントそれぞれ悪化した。

【従業員】今期の従業員DI値(全産業)は、前回調査(▲13.8)から12.4ポイント改善し、▲1.4となった。業種別では前回調査から、製造業が25.6ポイント、卸売業が7.6ポイント、サービス業が15.6ポイントそれぞれ改善し、小売業が1.5ポイント悪化した。

2. 来期(令和2年7～9月期)の予想

来期(令和2年7～9月期)の全産業の予想DI値は、売上額▲76.2、資金繰り▲54.1、業況▲70.3となった。

3. 経営上の問題点

第1位は、製造業・卸売業・小売業・サービス業すべての業種が「需要の停滞」となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(平成元年4月～6月期)と比較して売上額、業況、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

【調査の概要】

- ・調査名：第160回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
 - ・調査時期：令和2年5月22日～6月9日（前回：令和2年2月20日～3月1日）
 - ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
 - ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
 - ※ 全国7,918件中、大阪商工会議所分324件。
 - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）290件について取りまとめた。
- 〔製造業75件、卸売業67件、小売業68件、サービス業80件〕

■DI値推移（全産業）

	157回調査	158回調査	159回調査 (前回)		160回調査 (今回)	
	R1(2019年) 7～9月期	R1(2019年) 10～12月期	R2(2020年) 1～3月期	R2(2020年) 4～6月期	R2(2020年) 4～6月期	R2(2020年) 7～9月期
売上額（増-減）	-19.0	-25.7	-33.2	-29.1	-76.9	-76.2
資金繰り（好-悪）	-13.6	-19.9	-22.1	-22.8	-49.3	-54.1
業況（好-悪）	-21.8	-26.4	-32.9	-29.4	-75.5	-70.3
従業員（過-不）	-17.0	-15.8	-13.8		-1.4	

■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	需要の停滞 →	31 (19)	需要の停滞 →	33 (23)	需要の停滞 →	19 (12)	需要の停滞 ↑	25 (10)
2位	その他（コロナ感染症による取引先休業等による受注減、現金不足、固定費（家賃）の支払い等） ↑	11 (1)	その他（コロナウイルスの影響による需要の停滞、コロナウイルスの影響による流通の停滞等） →	10 (6)	大型店・中型店の進出による競争の激化 → その他（新型コロナウイルス緊急事態宣言による消費の激減、仕入先の廃業等） ↑	10 (10) 10 (2)	その他（売上がほぼゼロ、コロナウイルスによる受注減、コロナウイルスのため開店休業状態等） ↓	17 (12)
3位	製品（加工）単価の低下・上昇 ↓	6 (10)	事業資金の借入難 ↑	4 (2)			利用者ニーズの変化への対応 ↓	8 (11)

[注]（ ）内は前回（令和2年4～6月期）調査結果

↑＝前回より高順位

→＝前回と同順位

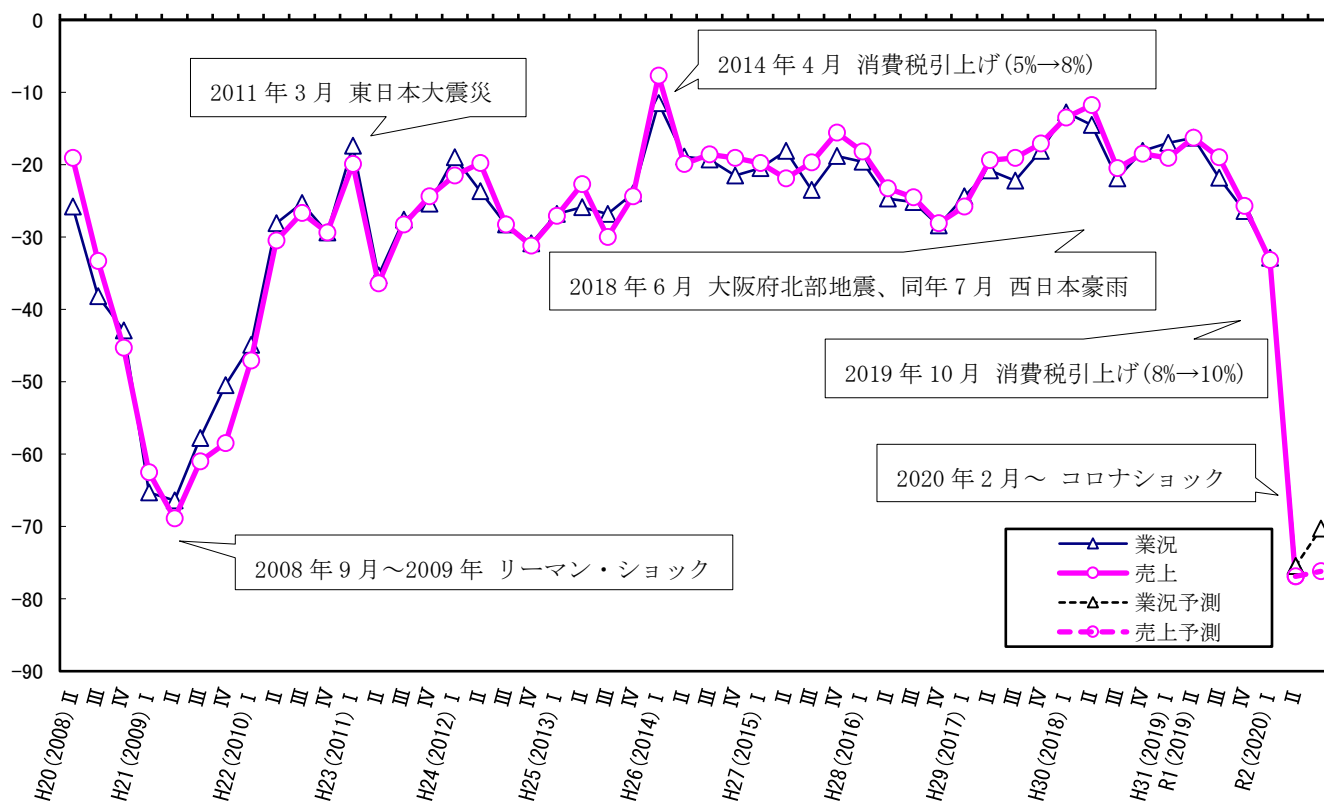
↓＝前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(4~6月期)				前回(1~3月期)からの推移	来期の予想(7~9月期)			
		増加	不変	減少	増-減		増加	不変	減少	増-減
売上額										
	製造業	1.3	16.0	82.7	▲ 81.3	▲ 47.5	5.3	12.0	82.7	▲ 77.3
	卸売業	4.5	7.5	88.1	▲ 83.6	▲ 40.5	1.5	9.0	89.6	▲ 88.1
	小売業	5.9	11.8	82.4	▲ 76.5	▲ 38.3	7.4	16.2	76.5	▲ 69.1
	サービス業	8.8	15.0	76.3	▲ 67.5	▲ 46.8	3.8	21.3	75.0	▲ 71.3
	合計	5.2	12.8	82.1	▲ 76.9	▲ 43.7	4.5	14.8	80.7	▲ 76.2
	前回	14.9	36.7	48.1	▲ 33.2		17.0	37.0	46.0	▲ 29.1
資金繰り		好転	不変	悪化	好-悪		好転	不変	悪化	好-悪
	製造業	0.0	54.7	45.3	▲ 45.3	▲ 30.4	1.3	40.0	58.7	▲ 57.3
	卸売業	1.5	44.8	53.7	▲ 52.2	▲ 26.0	1.5	40.3	58.2	▲ 56.7
	小売業	4.4	32.4	60.3	▲ 55.9	▲ 28.0	5.9	30.9	61.8	▲ 55.9
	サービス業	3.8	46.3	48.8	▲ 45.0	▲ 24.3	5.0	41.3	52.5	▲ 47.5
	合計	2.4	44.8	51.7	▲ 49.3	▲ 27.2	3.4	38.3	57.6	▲ 54.1
	前回	3.5	69.6	25.6	▲ 22.1		3.8	68.2	26.6	▲ 22.8
業況		好転	不変	悪化	好-悪		好転	不変	悪化	好-悪
	製造業	0.0	22.7	77.3	▲ 77.3	▲ 44.9	0.0	17.3	80.0	▲ 80.0
	卸売業	1.5	11.9	86.6	▲ 85.1	▲ 46.6	1.5	14.9	71.6	▲ 70.1
	小売業	5.9	11.8	80.9	▲ 75.0	▲ 33.8	5.9	22.1	67.6	▲ 61.8
	サービス業	5.0	22.5	71.3	▲ 66.3	▲ 44.3	2.5	25.0	71.3	▲ 68.8
	合計	3.1	17.6	78.6	▲ 75.5	▲ 42.6	2.4	20.0	72.8	▲ 70.3
	前回	10.4	46.0	43.3	▲ 32.9		11.8	44.6	41.2	▲ 29.4
従業員		過剰	適正	不足	過-不					
	製造業	16.0	73.3	8.0	8.0	25.6				
	卸売業	10.4	76.1	7.5	3.0	7.6				
	小売業	5.9	63.2	13.2	▲ 7.4	▲ 1.5				
	サービス業	8.8	66.3	17.5	▲ 8.8	15.6				
	合計	10.3	69.7	11.7	▲ 1.4	12.4				
	前回	3.8	72.0	17.6	▲ 13.8					

「今期の状況（除従業員）」は令和2年4~6月期状況であり、前年同期の平成31年（令和元年）4~6月期との比較。来期の予想は令和2年7~9月期予想であり、令和元年7~9月期との比較である。「前回」欄は令和2年1~3月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※令和2年 II は予想値